

地域とともに歩む学校づくり

本校の学校教育目標は、「国際社会にたくましく生きる大富っ子の育成」。学校の自慢は、季節折々の花に囲まれた四方から見える大きな時計塔のあるおしゃれな校舎。そして、特色の一つに総合的な学習の時間が、地域の方々との交流活動を大切にしながら展開されていることが挙げられます。その取り組みの一部について紹介します。



《草花栽培》

地域の方々に3回来校して教えていただきます。一粒ずつ丁寧に種をまき、その後、園芸用ポットに移植し、プランターへの定植をします。土は、赤土と堆肥を1対1、化成肥料を入れて混ぜて作ります。水やりを欠かさず行い、市内12事業所に手紙を添えて届けます。



種まき



土づくり



定植



配付

《菊栽培》

挿し芽、移植、定植の順に作業を進め、花が咲く頃に地域の一人暮らしの高齢者のお宅に届けます。手紙を読んで渡すと、涙ながらに喜んで受け取ってくださる方もいらっしゃいます。



菊挿し芽



移植



定植



菊配付

《いちご栽培》

いちごの先生（保護者）に教えていただきながら、苗植えを行います。水やりを毎日交代で行い、温度調節のためにビニールをまくり上げる等の世話は大変です。その代り、12月から5月までは数種類の甘いいちごがたくさん食べられます。時期が終わり株切りまで行います。



整地・消毒・畝づくり



苗植え



花・実

その他、米作り・グラウンドゴルフ交流会・里山への桜の苗木植樹等を行っています。また、4月には、新入生の歓迎遠足として地区のいちご屋さんのご厚意で、全校いちご狩りを行い、新鮮ないちごをお腹いっぱいごちそうになります。さらに、全校児童92名に対し、45名にも及ぶ地域の方々による見守り隊の防犯活動により、安全で安心な学校区となっています。